



"the core of self_2488v1"

h40×36×5cm / pigment, acrylic on basswood / 2024 (部分)

坪田昌之展 | 呼吸する境界

会期：2025年11月5日（水）～11月15日（土）*11月11日（火）休み

時間：13:00-19:00 *最終日18:00迄

H-art Beat Gallery | 101-0051 東京都千代田区神田神保町2-38-10 多幸ビル2F

この度、H-art Beat Gallery は坪田昌之の個展 "呼吸する境界" を開催致します。

深遠静謐、シンプルかつ洗練されたフォルムを持つ坪田昌之の作品は、多くの個人コレクターを魅了するにとどまらず、世界中の建築家やインテリアデザイナーの感性と響きあいコラボレーションする機会も数多く与えられています。とりわけコミッションワーク（特注）として制作された作品が、国内外のオフィスビル、ホテル、マンション、病院など多岐にわたる建築・インテリアプロジェクトに納入設置され、多くの人の目に触れ愛され続けております。

弊廊では、2015年、2018年、2020年、2022年に続き5回目の開催となります。この機会に是非ご来廊ご高覧頂きますようご案内申し上げます。

<作家ステイトメント>

私たちは日々、無数の境界線の中で生きている。

内と外、意識と無意識、記憶と現在、自己と他者—これらの境界は固定されたものではなく、呼吸のように絶えず拡張と収縮を繰り返している。本展覧会では人間の内面世界の複層性と、その最も深奥にある核心部分を彫刻的言語で探求した作品を展示する。境界と空間を相互に浸食させることで、固定観念としての「自己」の輪郭を解体し、再構築する試みを行っている。

今回の作品群が醸し出す「呼吸する境界」とは、固定された分離線ではなく、生命のリズムと共に脈動する膜のようなものである。これらの作品と対峙するとき、その境界は観る者の内なるリズムと共鳴し、新たな共振を生み出す。原始的な記憶と五感が交感することで、言語以前の深いコミュニケーションが成立する瞬間を創出したい。

この展覧会を通じて、私たちが日常的に意識することのない「境界」の存在に気づき、それが固定されたものではなく、生命と共に呼吸している動的な存在であることを感じ取っていただければと願っている。そして、その気づきが、自己理解の新たな地平を開く契機となることを。自然と人類、存在と不在。より深い理解への扉は、この「呼吸する境界」の向こう側に静かに佇んでいる。

坪田昌之 Masayuki TSUBOTA

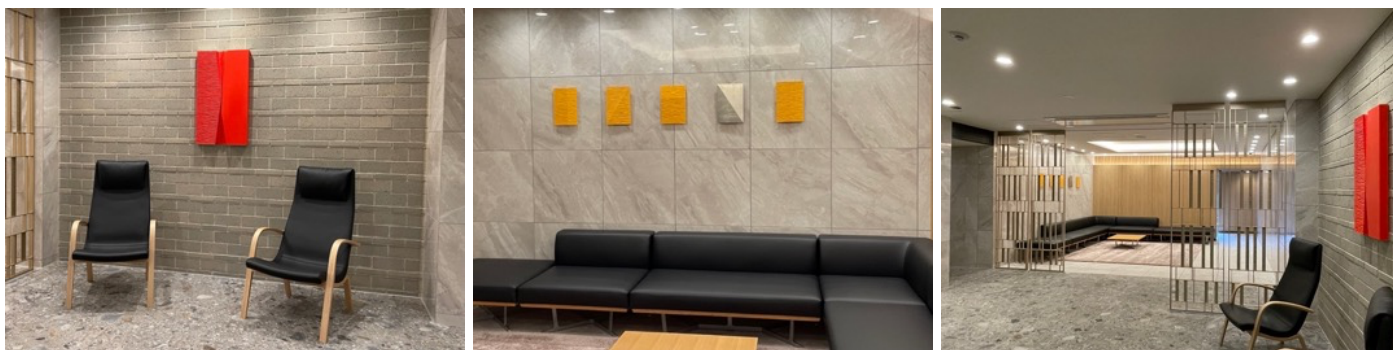
略歴：

- 1976年 大阪生まれ
- 2001年 大阪芸術大学大学院 芸術制作研究科彫刻修了
- 2008年 釜山ビエンナーレ "Art is Now" (韓国)
- 2009年 個展 エミリオロマーニャ州公式行事 (ファエンツァ市庁舎／イタリア)
- 2010年 『語りかける色とかたち』 坪田政彦・内田鋼一・坪田昌之 3人展 (中野邸美術館／新潟)
- 2012年 個展 (INSA GALLERY／ソウル・韓国)
- 2016年 個展 (山木美術／大阪)
- 2019年 個展 (gallery MOE LA／ロサンゼルス・アメリカ)
- 2020年 グループ展 ResonanceE (H-art Beat Gallery／東京)
- 2022年 個展 (H-art Beat Gallery／東京) "15, 18 '20 他、個展・グループ展多数。

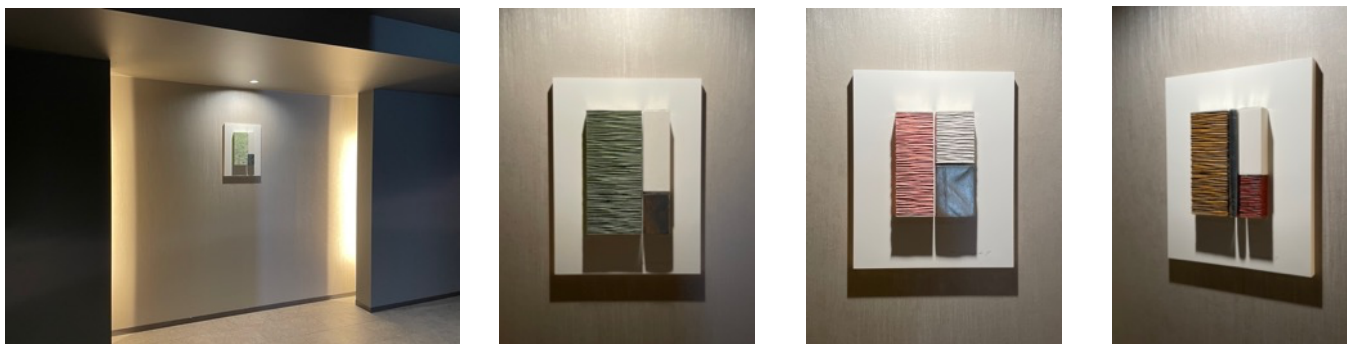
主な収蔵先：

ジオ明石本町 (兵庫)、グランリビオ表参道 (東京)、大手町パークビルディング (東京)、アスコット丸の内東京 (東京)
南港駅オフィスビル (台北／台湾)、ジオ新宿若松町 (東京)、プレミスト三鷹 (東京)、プライムスタイル東日本橋 (東京)
シスメックステクノセンター中央研究所 (兵庫)、ホテルインターコンチネンタル大阪、OPUS Arisugawa (東京)
東京ガーデンテラス紀尾井町 (東京)、ホテルブライトンシティ大阪北浜 *全館プロデュース (大阪)、個人邸、他多数。

主な収蔵作品：



マンション・エントランス (明石／兵庫)



マンション・ELVホール (表参道／東京)

H-art Beat Gallery

101-0051 東京都千代田区神田神保町2-38-10 多幸ビル2F

2-38-10 Tako Bldg. 2F Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051 Japan

e-mail : gallery@hartbeat.co.jp URL: <https://hartbeat.co.jp> Director : 西山 勝 Masaru Nishiyama